

# 砺波市立太田公民館

(平成21年1月31日現在)

## ◆ 事業の目的

太田地区の三世代交流を活性化するため、また、ふるさとへの愛着を持たせるため「太田ものしりマップー生き物編」を使って、地域探訪を行い区内の自然と生き物に接し、ふるさとをもっと学び知ることを目的とする。

また豊かな自然にふれ赤米(古代米)を育てる講座を通じ田植え、稲刈りの農業体験をし、収穫した赤米を皆で食し、豊かな自然に感謝する心を育てることをねらいとする。

## ◆ 事業の流れ

実施日	活 動 名	場 所	参加人数
5・31(土)	三世代ふれあい赤米作り体験【田植え】	光圓寺前の水田	73名
6・7(土)	生き物自然観察会	太田地区内(石公園・庄川他)	32名
7・5(土)	〃	太田8区内(集会場他)	21名
8・2(土)	〃	太田西区内(神明社他)	39名
8・3(日)	〃	祖泉公民館・神社	46名
8・10(日)	〃	太田4分団地区内(庄川他)	11名
8・22(金)	〃	久泉光圓寺	11名
8・24(日)	〃	太田3区内(家庭菜園)	30名
8・30(土)	〃	太田2区内	11名
10・5(日)	〃	太田6区内(ビオトープ他)	11名
11・2(日)	三世代ふれあい赤米作り体験【稲刈り】	光圓寺前の水田	55名
11・29(土)	三世代ふれあい赤米作り体験【収穫祭】	太田公会堂	57名

## ◆ 事業の様子

### 【生き物自然観察会】

☆ 太田地区全体(6月7日)

天候に恵まれ三世代交流にふさわしく多数の参加者があり、動植物の昔の話も交えた説明を聞き、今まで知らなかったことに気づきかなりの成果がありました。

☆ 太田5分団(7月5日)

蛍が水辺に生息するための生態系と環境、ゲンジボタルとヘイケボタルの違いやその一生などを集会場で勉強したあと、実際に生息地で観察しました。参加者全員がホタルの幻想的な光に感動し、草刈の時期や江浚いの仕方など環境を守る大切さを実感しました。

☆ 太田西区(8月2日)

昔この地区にいた鳥、魚、昆虫などに関する話を聞き、種類が多いことと時代とともに減少してきたといいなながらも今日でも目や耳にする生き物がいることを再認識したことが自然体験の少ない子どもたちにとって意味あることでした。インターネットで調べたものをプリントアウトし、それを見ながら説明を受けました。

祖泉地区(8月3日)

生き物マップを使って自然観察会を実施し、ホタルの生態調査結果についても話し合いました。三世代交流事業も兼ねたので子どもが全員参加でき、地域のきずなを深めることができました。



☆ 太田4分団（8月10日）

個人宅で鯉、めだか、かぶと虫を観察し、ビオトープではめだか、どじょう、雨蛙、くまん蜂、バッタも観察しました。ビオトープに向かう途中に鷺を見つけ歩きながら見ました。庄川では、全員の子どもが魚を釣ることができたので、来年も「やりたい」という要望がありました。



☆ 久泉地区（たんぼぼの調査）（8月22日）

たんぼぼの調査を通して身近な自然や環境を見つめ直すきっかけにしたいというねらいから行いました。たんぼぼのからだのつくり（花、種子、根）の観察を行い、花や茎を刈っても根さえ残っていれば簡単に生えてくる様子を説明して生命力の強いことを学びました。

☆ 太田3区（8月24日）

専業農家の方から、大豆作りの苦労や喜びを話してもらい、家庭菜園を中心に夏野菜の観察をし、野菜や果実にふれたり摘んだり食べたりして楽しく過ごしました。また、蟬のぬけがらやコオロギ、バッタ、蝶を捕らえたりして、夏の自然への関心を深めました。

☆ 太田2区（8月30日）

子どもたちは、地区内の用水路、畦、庭などを見て回り指導者から花や虫の名前を教わりました。普段通り慣れている場所でも自然観察という意識を持つことで、多くの驚きと発見を得たようです。



☆ 太田6区（10月5日）

ビオトープに生息する生き物や、植物の観察をしたり地区内にある樹木を見て歩いたりしました。日頃動植物に対して興味を持っていなかった子どもたちが、この観察会をとおして川に生息する生物に興味を示すようになりました。

### 【三世代ふれあい赤米づくり体験】

☆ 田植え（5月31日）

雨の中での田植えであったが、大勢の参加者があり、有意義な活動でした。昔は雨天でも田植え作業は行われた事を子どもたちに教えました。

☆ 稲刈り（11月2日）

農業が機械化した為、最近ではしなくなった鎌での稲刈りやはさ干し（ガードレールを代用）の仕方を指導者から説明や指導を受けながら、大勢の参加者と共に体験したことは有意義でした。



☆ 収穫祭（11月29日）

【学ぶ】赤米と米づくり、お米クイズ

【表す】短歌づくり

【競う】豆つかみ

【食す】赤米のおにぎりを自分で作り、食べる

【習う】おじいちゃん、おばあちゃん方の指導を受けて縄を使った工芸品を創る

### ◆ 事業の成果と課題

- ・ 広範囲な事業を地域の数多くの住民の協力のもと実施できたことは地域のコミュニケーションときずなづくりにとても役立った。ただし、負担加重とならぬよう配慮が必要である。
- ・ 三世代による田植え、稲刈り、収穫祭を行って、収穫祭では自分でおにぎりを作り食したことで、自然の恵みと農業に関する知識を子ども達に少しでも理解してもらえたと思う。